



校長通信

令和5年度 2号 令和5年4月13日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

《教員以外の生徒を支える職員紹介》

学校において、教師は、生徒に教科を指導することが主な業務の一つですが、それ以外に様々な役職をもつ職員が、生徒の学校生活を支えています。以下に、いくつか紹介します。

学校支援サポーター

警察本部生活安全部少年課長の指揮を受け、学校、警察署、少年センター等と連携を図り、教職員と協力して、学校内外における巡視及び生徒の安全を確保するのが主な業務です。本校に毎日常駐し、校門に立って、生徒の登下校の安全確保や、校内外の巡視による安全確保を行って来ています。また、昨年度は、薬物乱用防止の講演を行っていただきました。

スクールカウンセラー

生徒や保護者からの相談に対するカウンセリングを行うのが主な仕事です。今年度、本校では、火曜日か水曜日のどちらかの日に、ほぼ毎週、勤務してもらいます。

スクールソーシャルワーカー

生徒が学校や日常生活で直面している苦しみや悩みについて、生徒の社会環境を構成する家族や友人、学校、地域に働きかけ、福祉的なアプローチによって、問題解決の支援をします。医療機関や児童相談所、福祉事務所などとの連携も進めます。
(参考文献 文部科学省 HP)。

《言葉かけの大切さ》

新聞の投書欄に、中学生の投書が掲載されていました。教師の言葉かけの大切さを改めて教えてくれる内容でした。以下、掲載します。

今年初め、校長先生と2人で話す「校長面接」をした。私は1, 2学期の成績があまりよくなくて、特に数学が大の苦手だった。校長先生に「苦手な教科はありますか」と聞かれた私は、「数学です。数学は無理なんです」と、弱音を吐いてしまった。

校長先生は「無理とか言っちゃダメなの。諦めずにやってみては」というような言葉をかけてくれた。それで私は苦手でも最後まで諦めずに頑張った。学年末テストの結果はすぐよくはならなかったが、これからも何事も諦めずにやろうと思っている。

(中学生 望月はなか 4月11日 読売新聞投書欄より)

教師が生徒にかける言葉って、本当に大切ですね。身が引き締まる思いです。

